

音楽科学習指導案

科 目	授業学級	授業場所	使用教科書	授業者
音楽理論	2年7組（音楽科）38名 （男子3名，女子35名）	音楽室2	明解 新楽典	濱田淳一

1 題材

「移調・移調楽器について知ろう」

2 題材の指導目標

- (1) 移調・移調楽器について正しく理解させ、既知の楽曲等を用いた演習に主体的に取り組ませる。
- (2) 演習を通して移調・移調楽器の知識を定着させ、音楽性豊かな表現をするための基礎的な能力を養う。
- (3) 音楽を形づくっている要素を知覚させ、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、楽器の音色の特徴と表現上の効果との関わりを聴き取らせる。

3 題材の評価規準

観点1 音楽への関心・意欲・ 態度	観点2 音楽表現の技能	観点3 鑑賞の能力
移調・移調楽器の理論に興味・関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。	移調・移調楽器の知識を生かして、アンサンブルや吹奏楽曲・管弦楽曲等の演奏技能を身に付け、創造的に演奏できる。	移調・移調楽器の知識を正しく理解し、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。

4 題材の指導計画（全5時間）

次	時	目 標	題材の評価規準との関連	指導上の留意点
1 次	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 移調の目的について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 声域との関係について ・ 原曲と異なる楽器で演奏する場合について ・ 演奏技術の向上 ・ 作曲の技術の向上 ○ 移調の実習 	観点1・2・3	五線譜や視聴覚機器・教材を活用する。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 移調の実習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の学習内容を復習する。 ・ 既知の楽曲を用いて、演習を実践する。 	観点1・2・3	五線譜や視聴覚機器・教材を活用する。

2次	3 (本時)	○ 移調楽器について理解する。 ・ 1次の学習内容を復習する。 ・ 移調楽器について理解する。 ・ 既知の楽曲を用いて、演習を実践する。	観点1・2・3	五線譜や視聴覚機器・教材を活用する。
3次	4 5	○ 教科書の演習問題を実践する。 ○ 主科の練習曲や既知の曲を用いて、移調の仕組みを理解しているか復習する。 ○ 教科書の総合問題や過去の入試問題等で演習を実践する。	観点1・2・3	過去の入試問題等の準備

5 教材観

教材は、「V 移調，移調楽器」～後編：4章 音階と調～ を使用する。

移調・移調楽器の理論を学習することは、アンサンブルや管弦楽・吹奏楽といった大規模な演奏形態の楽曲演奏や鑑賞の際に不可欠な知識であるとともに、大学入試においても配点・難易度ともに高く、生徒に確実に身に付けさせなくてはならない理論である。

6 生徒観

明るく活発な生徒が多いが、授業中は比較のおとなしいクラスである。専攻の内訳はピアノ7人、管打楽器28人、声楽3人で、管楽器専攻の生徒が多い。移調・移調楽器の理論については、管楽器専攻の生徒であっても、知識や理解が十分とは言えない。また、ピアノや声楽専攻の生徒にとっては、これまでの演奏活動で体験する機会が少ない理論でもあるため、概念自体が理解できていない生徒も多い。

7 指導観

楽曲の中で、アンサンブルや管弦楽・吹奏楽などの大規模な演奏形態が占める割合は非常に大きい。それらの中では様々な移調楽器が用いられているが、音楽理論の分野の中でも最も理解しづらい分野の一つが、この移調・移調楽器についてである。

本題材の学習を通して移調・移調楽器の理論を学ぶことで、スコアリーディングや楽曲分析の基礎を理解できるよう指導する。

8 本時の実際

(1) 本時の目標

- ア 楽曲の旋律を用いた移調の実習を通して、移調・移調楽器について理解する。
- イ 音楽を形づくっている要素を正しく捉え、演奏技能の基礎的な能力を養う。
- ウ 移調・移調楽器の特徴を理解しながら、演奏を聴くことができる。

(2) 本時の評価規準

- ア 移調・移調楽器について理解するために、実習に主体的に取り組んでいる。
- イ 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な基礎的な技能を身に付けようとしている。

ウ 移調楽器の特徴と実音との違いを聴き取っている。

(3) 本時の展開

過程	学習内容	時間	指導上の留意点(・は評価の観点)	備考
導入	1 本時の学習の目的を知る。	2	○ 音楽における移調・移調楽器の理解の重要性を伝える。 ・観点1	
展開	2 <u>移調楽器について知る。</u> <u>・楽器の演奏を聴き記譜と実音の違いを聴きとる。</u>	5	○ 譜例を示し、ピアノ、クラリネット、ホルン、アルトサクソフォン、トロンボーンで演奏させ、実音との違いを聴き取らせる。 ・観点3	ホワイトボード等
	3 問題演習を解答する。	20	○ スコアを用いて記譜と実音の違いを理解させる。 ・観点2	楽譜・視聴覚機器の準備
	4 <u>移調及び移調楽器が楽曲の中で、どのように用いられているかを知る。</u>	20	○ 楽曲の中で、移調及び移調楽器が、どのように用いられているかを理解させる。 ・観点2	楽譜・視聴覚機器の準備
終末	5 本時のまとめを行い、次時の予告を聞く。	3	○ 本時の学習内容のまとめと、次時に向けての課題を確認させる。 ・観点1	